

第 2 回荒尾駅周辺地区バリアフリー基本構想策定協議会の振り返り

開催日：令和 6 年 5 月 8 日（水） 14：00-16：00

場所：荒尾市役所 11 号会議室

議事	内容
第 1 回協議会の振り返り	
<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを利用される方が玉名駅や大牟田駅を使っておられる。オストメイトの話もご検討いただきたい。 ・バリアフリーの従来の概念である日常生活における障壁をなくすことはもちろん大事だが、心のバリアフリーも重要である。また、全ての年齢層に使いやすいものは時代とともに変わる。継続的に対応する場を設けていく必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ (1) 基本方針の設定について 	
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の移動を捉え直していくことが荒尾市のバリアフリーにはよいのではないかと。 ・ 子どもたちが住んでみたいと思えるまちを作っていくというのも一つの考え方と思う。バリアフリーの方針は安全・安心であるが、そういう視点も含めて多様なまちづくりをやっていく必要がある。 ・ リアフリーの目的はそこに用事がある人がいてこそだが、現状を見ると、車は通るが人通りが少ない。設備だけでなく交流、賑わいを創出しなければならない。 ・ エリア全体をバリアフリー化することは難しいため、体の不自由な方は通りやすいところを中心に通っていただくようなアナウンスの仕方があるのではないかと考えている。
上位関連計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリー法の第 25 条において、その他の計画との関連性について触れられている条文があり、地域公共交通計画との調和が保たれたものでなければならないとされているため、上位関連計画として追加いただきたい。 ・ 地域公共交通計画の中でさまざまな取り組みを今後行っていく。さらに利便増進計画を、今回のバリアフリー基本構想と調整しながら策定していきたい。
荒尾駅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長崎駅のような大規模な駅ではない中で、JR 九州として、どちらかという小さな荒尾駅について、バリアフリーの計画に載せていただいたのは本当にありがたいと思っている。 ・ 駅のエレベーターがバリアフリーの移動円滑化基準になっている 11 人や 15 人タイプのものであれば、救急時のストレッチャーが入らない。ストレッチャーは 2m あり、20 人乗りのエレベーターなら搬入可能なので、エレベーターの規模も踏まえて、安全・安心して利用できる荒尾駅に変えていただければよいと思う。 ・ 鉄道事業におけるバリアフリーの考え方も時代とともに変わってくるので、時代の流れに即した整備を行う必要がある。 ・ 荒尾駅のバリアフリーが中心となるが、器ができて、そこを歩く人がいないという問題がある。

議事		内容
駅前広場	交通広場 歩行者広場	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすで来られた方の物を持ってあげたり、介助してあげるような、駅が出会いの場になり、観光客にも使いやすく地元の人にも使いやすい場所はバリアフリーだと思う。 ・グリーンランドは集客力があるので、そこだけで終わらずに荒尾市駅前からあらお海陽スマートタウンにも寄って回遊して帰るといった取り組みができればよい。公共交通で回遊できるようにして、お客様が降りる場所はバリアフリー化されたところでスムーズな移動ができるようにしていきたい。
	バス	<ul style="list-style-type: none"> ・荒尾駅からバスの乗り継ぎのお客様は、長期休みのときに特に多い。移動がしやすいようにフラットに段差をなくす。あとは案内図やアナウンスを実施して、利用しやすいようにできればよい。
	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・荒尾市の乗合タクシーである、おもやいタクシーは他地区にはない。低料金で小回りが利いて、利用頻度が高くなってきている。これは荒尾駅に降りられる観光客と荒尾市民の足の両面を兼ねている。
・2) 重点整備地区、生活関連施設・経路の設定について		
重点整備地区		<ul style="list-style-type: none"> ・重点整備地区や経路の設定は難しい。このエリアを全部やろうと思うと相当事業費がかかる。この中から主要なルートネットワークさせるということは大事だと思っている。
経路		<ul style="list-style-type: none"> ・経路について、おおよその方針はよいと思う。今回の重点整備地区を全部歩くわけではない。車いすの人も含めて、子どもでも安心・安全に歩けるところはどこかというのがうっすら見えていけばよい。 ・安全・安心において、この区域は道路の歩道を広く、車道を狭くするという形で、賑わいという面でも横に並んで歩けると歩行者も視覚障がい者の方も安全である。道路は交通量が多いときにスピードが出せないような通行帯にしたほうが安全になると思う。 ・マウントアップすると切り下げて傾斜になっている箇所があり、車いすが車道側に転がると非常に危険である。設置に賛否あるが車が入らないよう安全な段差があるマウントアップはよい。切り下げ部は配慮が必要になるので、車いすの人たちにも現地を見ていただいたほうがよい。 ・あらお海陽スマートタウンには、公園が整備予定で周辺にないような遊具や緑地含めて3haの広さもあるので、新たな観光としての重要な拠点となるのではないかと。そのため、主要道路のバリアフリーはきちんと進めていく必要がある。
まち歩き点検		<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多様な皆さんにご参加いただき、ご意見をいただきたい。今回だけでなく、日ごろからお話を聞いていき、できること、できないことはあるが、いろいろ聞いて徐々にやっていくことが大事である。 ・駅の近くに盲学校や障がい者の方々が通学しているため、声をかけて参加してもらおうのもあると思う。 ・参加出来ない万田小学校等の人たちに、日常利用していて不便なことや、要望があると考えるため、ヒアリング等で補填するのがよいのではないかと。

駅周辺の「人幸増加」・「交流・にぎわい創出」・「利便性向上」の 土台を形成します

【基本方針】

○ 中心拠点である荒尾駅を含む荒尾駅周辺地区をバリアフリー化し、
だれもが安心して移動できる地区を目指す

○ 荒尾駅・あお海陽スマートタウン・中心市街地・市役所を一体とし
て、滞在快適性、回遊性の向上を目指す

